

2018年度「研究者の横顔」分田 貴子先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

肌に、治療の副作用のあとが残っている患者さんから、「温泉に行けない・半袖が着られない」などのお話を聞き、「治療中でも、自分らしい生活を送ってもらうためにどうすればいいのか？」を探し始めました。

2. 助成研究の内容紹介

ボランティアさんから、ハンドマッサージやネイルケアなどを受けることで、患者さんのお気持ち、どのように変化するのかを、いただいたアンケートから詳しく調べていきます。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

ボランティアさんによる温かいサービスによって、患者さんが明るく、そして、元気にもなれることを、示していきたいと考えています。

4. 全国のRFL関係者に一言

この度は、貴重な助成金をいただき、大変感謝しております。「治療中でも自分らしい生活」につながるケアを、医師の立場から確立するため、大切にに使わせていただきます。